



～テーマ～

『生体防御論から生存環境へ再び生体防御論』

すべての生き物は生体防御のしくみを持っています。条件の変化に適応し進化して生き延びてきました。

マクロファージ、好中球や抗体などにより私たちは守られていますが、この生体防御能が低下すると日和見感染症の発生や傷が治りずらくなったり、コレステロールが増加したりします。

生体防御能は年齢やストレスによって変化します。

生き物を守るためには生き物が生存する環境も生き物として捉えなければいけない(生存環境科学)のですが、環境の変化が著しい現代には、さらに進化した生体防御論が必要になってきました。これからもさらに研究していきたいと思います。



講演する野本教授



熱心に聞き入る来場者

野本 亀久雄

1961年九州大学医学部卒業

1977年九州大学医学部

癌研免疫学部門教授

1983年九州大学医学部

生体防衛医学研究所所長

2000年九州大学定年退官

九州大学名誉教授

現在、日本臓器移植ネットワーク理事長兼幹旋対策本部長。日本医療機能評価機構、医療事故対策担当理事。ヒューマンサイエンス財団倫理審査委員長。

NPO「日々黎明塾」理事長。

我が国の免疫学界のみならず産官医学各界の重鎮、著書多数。

平成24年2月12日

群馬県渋川市ホールにて